

夏秋トマトの熟練のかん水技術をデータ化

夏秋トマトの熟練生産者が経験や知識に基づいて行っているかん水技術をデータ化しました。熟練生産者は、かん水量を日射量に応じてこまめに調整して、土壤水分を適正に保っていることがわかりました。

研究成果の概要

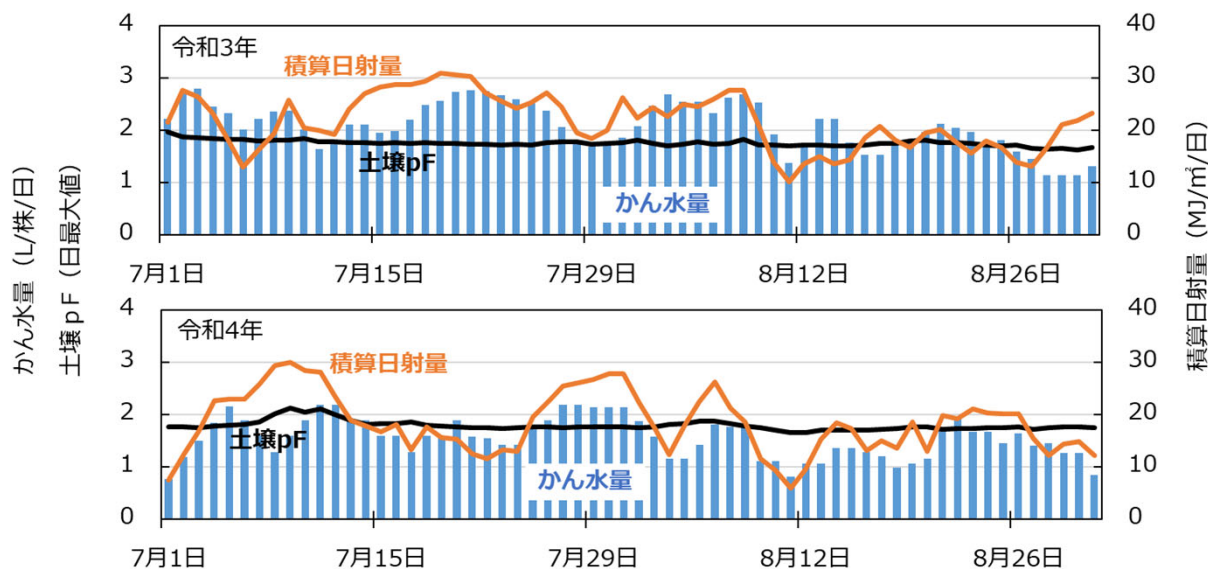
1 背景・目的

夏秋トマト栽培において、かん水はトマトの収量や品質を大きく左右する重要な技術です。生産者はかん水量を天気や気温に応じて日々調整して、土壤水分を適正に維持しようとしています。これには豊富な経験や知識が必要です。

そこで、経験が浅い生産者でも適正なかん水ができるように、熟練生産者のかん水技術をデータ化しました。

2 内容

- 1日当たりのかん水量は、1日の総日射量（積算日射量）と同じような推移をしました。
- 土壤水分（土壌pF）は変動が小さく、適正域（1.8～2.0）付近で推移しました。



かん水量、土壌水分および日射量の推移（値は、3日移動平均値）

3 活用等

- 生産現場での指導などに活用されています。
- 日射量に応じた自動かん水技術などスマート農業技術への活用も期待されます。

関連情報

- 本研究は県重点事業「「スマート農業技術」実装加速化推進事業」で実施しました。
- 詳細については、令和6年度普及に移す研究成果・参考となる研究成果を参照してください。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R6-ys3.pdf>

